

平成 25・26 年度 土木学会複合構造委員会 第 11 回幹事会議事録

日 時：平成 27 年 1 月 7 日（水）14:00～17:30

場 所：土木学会 役員会議室

出席者：島委員長，奥井副委員長，池田幹事長，大久保幹事，葛西幹事，斉藤幹事，下村幹事，滝本幹事，西崎幹事，広瀬幹事，松本幹事，溝江幹事，渡辺幹事，久米村事務局

配布資料：

- 資料 幹11-0 第11回複合構造委員会幹事会議事次第
資料 幹11-1 第10回複合構造委員会幹事会議事録（案）
資料 幹11-2 平成26年度の予算執行状況
資料 幹11-3 第5回FRP複合構造・橋梁に関するシンポジウム報告
資料 幹11-4 土木学会論文集A1特集号：複合構造
資料 幹11-5 第 1 1 回複合シンポジウム準備
資料 幹11-6 国際会議「IABSE-JSCE joint conference on Advances in bridge engineering-III」の対応
資料 幹11-7 出版関係
資料 幹11-8-1 小委員会一覧
資料 幹11-8-2 H101示方書委員会
資料 幹11-8-3 H181鋼コンクリート合成床版設計・施工指針作成小委員会
資料 幹11-8-4-1 H212耐荷メカニズム研究小委員会
資料 幹11-8-4-2 H212耐荷メカニズム研究小委員会の継続願い
資料 幹11-8-5 H213構造物の更新・改築技術に関する研究小委員会
資料 幹11-9 平成27年度重点研究課題
資料 幹11-10-1 平成27年度研究討論会企画募集
資料 幹11-10-2 研究討論会リスト
資料 幹11-11 部外からの問い合わせ対応
資料 幹11-12-1 第4回委員会議事次第（案）
資料 幹11-12-2 第二種研究小委員会の成果公表の見直し

議事内容：

0. 委員長挨拶

島委員長より挨拶がなされた。

1. 第10回幹事会議事録（資料 幹11-1）

第10回幹事会議事録(案)について，広瀬幹事より説明され，承認された。

2. H26年度の予算執行状況について（資料 幹11-2）

池田幹事長より，H26年度の予算執行状況について報告があり，以下の事項が確認された。

- ・複合シンポジウムで使用した経費が入っていないので追加する。
- ・土木学会論文集A1特集号編集小委員では，編集費用と旅費が発生するため，予算通りとなる予定である。
- ・その他，年度末までの使用予定を連絡してほしいとのことであった。

3. 第5回FRP複合構造・橋梁に関するシンポジウム（資料 幹11-3）

溝江幹事より、資料11-3に基づき説明があった。

- ・平成26年11月12日～13日に開催され、講演数23編、参加者数79名、パネル出展6件と盛況であった。また、優秀講演者を3名選出した。
- ・収支状況は黒字となった。
- ・論文のCDを200部作成し、参加者数79名と親委員会に配布し、10枚を出版委員会に進呈した。残り約50枚については、久米村事務局で保管し、他の講習会の特典等に使用してほしい。

4. 土木学会論文集A1特集号：（資料 幹11-4）

葛西幹事より、資料に基づき説明があった。

- ・FRPシンポジウムを受け、4編を推薦し3編の投稿があった。現在、査読中である。
- ・今後の委員構成について検討中で、基本案として鋼、コンクリート、FRPから1名ずつ選出することを考えている。

この他、論文の編集ポリシーや招待論文の掲載意義についてのHP掲載について、小委員会では、論文の巻頭に、編集ポリシーや査読方法についての内容を記載することを考えている旨、報告があった。これに対し、以下のような意見があった。

- ・論文の巻頭に掲載ではなく、複合構造委員会のHPに載せてほしい。
- ・招待論文では、個人の意見もよいが、専門分野の将来展望について総説、解説されるのが理想である。
- ・たとえば、研究テーマとして、大きな枠組みの中で、執筆者の歩んできた足跡などを述べられていると興味深い。

これらの意見を参考に、小委員会で再検討することとなった。

5. 第11回複合シンポジウム準備状況（資料 幹11-5）

溝江幹事から、資料に基づき説明があった。

- ・開催日は、平成27年11月5日～6日となった。参加費は従来通りとしている。
- ・開催のチラシを平成27年1月10日までに事務局に提出し、学会誌3月号に掲載される予定である。
- ・特別企画として、パネルディスカッションを予定しており、テーマは複合構造物の耐荷メカニズムを考えている。建築が最近、SRCとCFTの基準を出しており、有意義な議論を交わせると考えた。説明の後、特別企画のパネラーの人選を十分検討するよう要望があった。

6. 国際会議「IABSE-JSCE joint conference on Advances in bridge engineering-III」の対応（資料 幹11-6）

池田幹事長より、資料に基づき説明があった。

- ・平成27年8月にバングラデシュでIABSEとJSCEのジョイントで開催される。
- ・現在、論文候補を、複合構造示方書関連、FRP補強など、3つ程度あげており、今後絞り込む。
- ・旅費、参加費は今のところ自費であるが、場合によっては土木学会に申請する必要がある。

7. 出版関係（資料 幹11-7）

大久保幹事より、資料に基づき説明があった。

- ・出版物の平成26年11月末時点の販売状況について紹介があった。
- ・「複合構造シリーズ05 基礎からわかる複合構造-設計と理論-」の残部数が少なくなったため、出版委員会から増刷の申し出があった。しかし、現在改訂中の複合構造示方書の内容を盛り込むことや演習問題を追加するなど、改訂作業をする必要がある。そこで、2～3年で販売が見込ま

れる100冊程度を誤字脱字のみを修正し増刷し，その間に改訂委員会を立上げ検討し，3年後を目途に改訂版を出版する方向で検討することが確認された．増刷数については，出版委員会と調整することとなった．

8. 小委員会報告審議事項

(1) H101 複合構造標準示方書小委員会（資料 幹11-8-2）

- ・渡辺幹事より，資料に基づき説明があった．
- ・現在，原稿はほぼ完成しており，1月末に脱稿を予定している．
- ・3月末に出版，5～6月に講習会を開催する予定である．
- ・出版形態は，印刷物とセットで購入された方にCDを配布する．CDの配布には何度もハードにダウンロードすることができるというセキュリティーの問題もあるので，方法を検討したい．いい案があれば提案していただきたい．
- ・FRPを用いた補強の設計については記載しているが，次回の改訂に向けて，施工に関する委員会を立ち上げて検討する必要がある．

(2) H181 鋼コンクリート合成床版設計・施工指針作成小委員会（資料 幹11-8-3）

大久保幹事より資料に基づき報告があった．

- ・昨年末に2回の幹事会を開催し読み合わせを行った．現在，疲労部分を残して本文案ができている．
 - ・2月2日に予定されていた小委員会を3月26日に変更した．
- この後，杉浦小委員長より，委員会期間延長に関する説明があり了承された．延長の主な要因は以下の通りである．
- ・現在，検討している原稿を3月26日の小委員会で議論するが，その時に受ける意見に対する修正案を確認する場を4月以降に設ける必要がある．
 - ・試設計を行うが，3月26日の指摘を反映しなければならない．
 - ・以上のことから，委員会を現在の平成27年3月から9ヶ月延長し，平成27年12月までとしたい．

(3) H212 複合構造物の耐荷メカニズム研究小委員会（資料 幹11-8-4-1，幹11-8-4-2）

齊藤小委員会委員長より，資料に基づき報告があった．

- ・平成26年12月4日に2年間のまとめの委員会を開催した．成果報告として，土木学会論文集特集号の委員会報告に投稿予定，複合シンポジウムでの論文投稿およびパネルディスカッションを開催する予定であることが報告された．
- この後，第2期への委員会継続の申請があり承認された．継続への主な内容は以下の通りである．
- ・第2期では，各種合成部材の耐荷メカニズムを材料の損傷過程（イベント）に基づいて説明することを試み，既存のマクロ式の高度化や非線形解析を用いた評価法について検討を行う．
 - ・異種部材接合部については，非線形解析を利用するなどして，各種伝達要素の耐荷メカニズムに基づいた接合部の合理的設計法についても検討を行う．
 - ・委員は継続なので同じメンバーとした．ただし，幹事長は変更する．

(4) H213 構造物の更新・改築技術に関する研究小委員会（資料 幹11-8-5）

滝本幹事より，資料に基づき報告があった．

- ・平成26年12月16日に第1回の委員会を開催した．次回は1/30, 31を予定しており，そのうち1日はJRおおさか東線の現場を見学する予定である．
- 報告の後，以下のような議論があった．
- ・本委員会は，更新，改築技術のみをターゲットにしているのか．既設橋梁の性能評価がなければ

更新という議論に達しえないはずである。長寿命化に対する考え方を検討することは重要である。方針をはっきりさせて進めることを希望する。

- ・既設建造物の評価が重要であることは理解できているが、本委員会では更新、改築技術をターゲットに活動したい。

9. 平成27年度重点研究課題（資料 幹11-9）

池田幹事長より、資料に基づき説明があった。求められる課題は、将来起こり得る問題の解決に向けた具体的・実用的な研究課題および複数の委員会が合同で行う分野横断的な研究課題の2項目である。なお、H25年度とH26年度は不採択であった。

内容について議論を行い、今年度の応募はしないこととなった。

10. 平成27年度研究討論会（資料 幹11-10-1, 幹11-10-2）

池田幹事長より、資料に基づき説明があった。方針については以下の通りとなった。

- ・改訂中の複合構造示方書の出版に合わせ、複合構造全般の内容にしてはどうか。施工編を作ったので、それに関する話題でもよい。
- ・受託委員会で検討している、鋼コンクリート合成床版に関する話題はどうか。

以上の意見を考慮して、企画WGで検討することとなった。

11. 部外からの問い合わせ（資料 幹11-11）

池田幹事長より、資料に基づき説明があった。外部からの問い合わせに対する手順が示され、以下の意見が出された。なお、学会としての対応は事務局長がすべて確認することとなっている。

- ・複合構造示方書は、小委員会に任せ、幹事会に回答内容を連絡すればよい。
- ・調査研究小委員会は、回答内容を幹事会で確認する。
- ・対応しかねる場合も、幹事会で質問内容を確認する。
- ・営利目的の質問に対しては回答しない。

12. 第4回委員会議事次第(案)について（資料 幹11-12-1）

池田幹事長より、資料に基づき説明があった。資料は1/9の午前中までに久米村事務局に送付することが確認された。また、複合構造示方書の報告時間を長くとりよう時間調整することとなった。

13. 第二種研究小委員会の成果公表の見直し（資料 幹11-12-2）

池田幹事長より、資料に基づいて説明があった。第二種小委員会は出版委員会を通さずに報告書を作成できることとした。

14. その他

特になし

15. 次回

日時：平成27年3月6日～7日

場所：未定

以 上

（記録・文責：大久保）